

台風14号に備える農作物等の技術対策情報

台風14号は9月16日(木)午後から北東に移動を開始、17日(金)以降は速度を上げ東に進み、18日(土)に近畿地方に接近し、その後温帯低気圧に変わる予想です。

温帯低気圧になると強風の範囲は拡大する予想です。また、低気圧が近くを通過するため、大雨も予想されます。

今後の気象情報に注意し、強風や大雨に対する農作物の事前対策を行いましょう。また、被害が出た場合は速やかに対処しましよう。

1 水稲

○通過前

- ①既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

●通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②倒伏した場合、成熟期に達している稲は、できるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特にキヌヒカリ等穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。ただし、浸冠水、倒伏した稲は籾水分が不揃いで高水分のため、高温による急激な乾燥を避け、通風乾燥により籾水分を均一にしてから乾燥する。
- ②収穫までに日数があり、倒伏して穂が地面に付いている株は、無理に株を起こさず、他の株の上に穂を載せるようにして、株の乾燥を図る。

2 豆類

○通過前

- ①豆類は湿害に弱いため、入水口を止め、必ず排水路や排水口等の点検を行い、ほ場内に滞水させないようにする。
- ②大豆については、支柱・ビニールひも等で倒伏防止対策を行う。

●通過後

- ①大豆・小豆では、莢が地面に付いていると腐敗するため、直ちに起こし、腐敗防止のため、付着した泥を洗い流すように、高めの水圧で登録殺菌剤を散布する。

- ②浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆は茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。
- ③土が乾き地表が固まっていたら、条間や畝全体を軽く中耕し、通気を良くする。

3 野菜・花き

○通過前

- ①ハウスやほ場周辺の排水路を再点検し、8月の大雨で崩れたり埋まっている場合は整備する。
- ②ハウス栽培は、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。
資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検し、フィルムの種類が農ビの場合はしっかりと、農POの場合は風でばたつかない程度に締め直す。サイドは風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

- ③露地栽培は、支柱等を点検して補強し、しっかりと固定する。
直播きで生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかりと固定する。
幼苗期のものは、土寄せを行って株の揺れを防ぐ。
- ④果菜類等収穫可能なものは、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。
収穫後の側枝のうち、不要な枝やつるを摘除し、風圧を少なくする。

●通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥(500~1,000倍)を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③風雨による傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。泥が付着した場合は、流すように高めの水圧で登録殺菌剤を散布する。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫する。
播種直後で発芽不良の場合は直ちに播き直すか、速やかに代替え作物を選定して種子や苗を確保する。
- ⑤ハウス栽培の場合、湿度が高まり病気が発生しやすくなるので、積極的に換気を行う。通路が湿潤で作業性が悪い場合は、もみ殻等を畝溝に敷き詰めて過剰な水分を吸収させる。
- ⑥露地栽培の風よけのべたがけ資材等はできるだけ早く除去する。
条間や畝全体を軽く中耕し、通気を良くする。

4 茶

○通過前

- ①新植、幼木園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せする。特に、風当たりの強い茶園では、杭等に茶樹を結束する。
- ②傾斜地茶園では、土壌浸食防止のためマルチや周辺排水溝の再整備を行う。
- ③新しく造成した茶園では、降水量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を再整備する。
- ④被覆茶園は、被覆資材を吊り線等へ結束する。由良川沿いで氾濫の可能性がある茶園の被覆資材は、泥水による汚損を防止するため撤収する。
被覆棚を補強するアンカー等に緩みがないか確認する。
- ⑤製茶工場では、電気施設及びガス、重油保安施設の電源や元栓を確認する。
浸水が予想される場合は、ショートによる火災防止のため、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

●通過後

- ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水し、漂着物を除去する。
- ②土砂が流入した場合は速やかに取り除く。
泥が付着した茶園では、葉層内部の古葉に付着した泥は、軍手等の手袋をし、両腕を株の中に突っ込んで株をゆすり、株内に落とす。葉層の上に載った泥は、竹等の棒状のものでつき落とす。作業時は土ぼこり防止のため、マスク、メガネ（ゴーグル）は必ず着用する。
- ③表土が流亡した場合は早急に土入れを行う。
- ④強風や激しい降雨で株元が不安定になった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ⑤炭そ病、新梢枯死症予防のため、適用薬剤を散布する。
- ⑥被覆棚や防霜ファン（配線・センサー等）に不具合や破損がないか確認する。
- ⑦茶工場が浸水した場合、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。
ショートによる火災防止のため、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。
生葉コンテナ等水洗い出来るものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。また、油漏れがあるか確認し、特に茶葉が通過する箇所に油の付着がないか確認する。
- ⑧作業時にはヘルメットやゴム手袋を着用し、複数で作業するなど安全に留意する。

4 果樹

○通過前

- ①果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れな
いよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ②ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強する
とともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ③棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引し枝折れや果実の落下を防ぐ。
- ④強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種（ナシ、ブドウ等）は、
できるだけ収穫する。
- ⑤幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥排水対策（明きょ等）をしっかりと行っておく。

●通過後

- ①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ②骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻し、癒合剤を
塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆
う。
- ③落葉や枝折れが多い場合、被害程度に応じ着果数を制限して樹勢回復させる。
また、枝折れの部分は切り直し、病原菌の侵入を防ぐための防除措置を行い、
除去した枝は園外に持ち出す。
- ③冠水した場合は、速やかな排水に努める。

(参考資料)



